

見沼田んぼ・野草スケッチ「イボグサ」

科名：ツユクサ科イボクサ属

花言葉：生命力旺盛な（よく繁茂する）



久しぶりにいつもの散歩コースを自転車でもわりました。この日は、秋晴れの気持ち良い日でした。このところ、田んぼの脇の農道に生える雑草がきれいに刈り取られ私が注目する野草が見当たらなくなっています。が、この日は、道と田の間に白い小さな花が咲いていました。よく見ると、今までみたこともない白地に先っぽが赤紫の花です。これは珍しいと撮りました。採集して持って帰りたいのですが、ツユクサの類のこの手の花は、すぐにしおれてしまいますので止めました。



「イボグサ」 (疣草)	
「イボグサ」	
世界：	在来種
生育地：	田の畔、池や沼など湿地に生える1年草。
茎 丈：	地面を枝分かれして這い節からヒゲ根を出して斜めに立ち上がる。全体が淡緑色で茎部分は淡紅紫色。20～30cm
葉：	互生、先端は尖り基部は柄がなく短い鞘となり茎を包む3～4.5cm 柔らかく滑らかで光沢
花期：	9～10月
花・花色：	葉の付け根から細い柄を出し淡い赤紫色の花をつける。1日花。外ガクは3片、薄緑色、花弁は白色で薄紅。雄しべ3個は淡紫色の棒状、仮雄しべも3個。
種子：果実	楕円体・長さ6mmくらい。種子は扁平で四角形または三角形の種子
特徴：	繁殖力がつよく田の厄介もので害草。紅葉する。
名前の由来：	クサの汁をつけるとイボがとれるといわれたことによる。